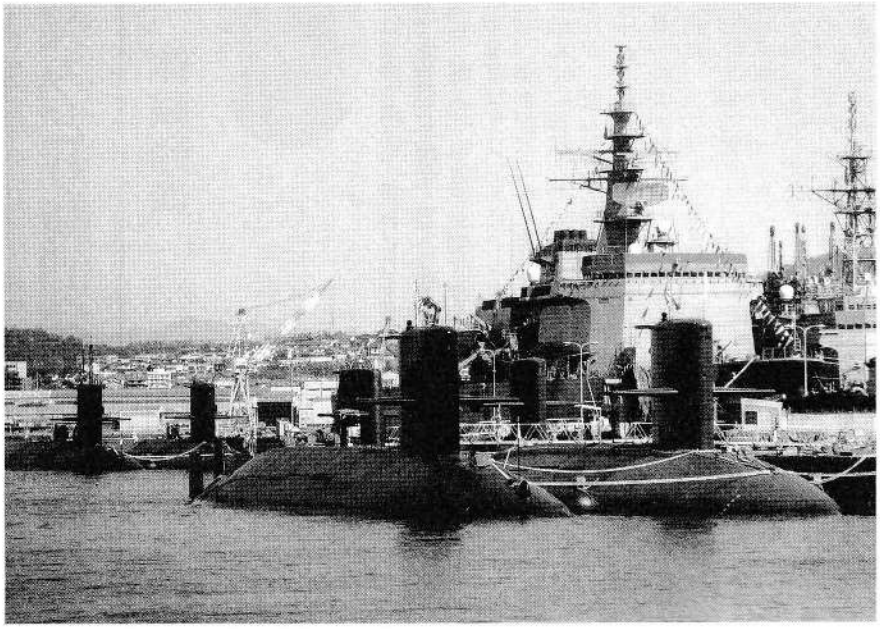
断酒
みどりの友

発行所　呉みどり断酒会
事務局
呉市押込5-12-25
渡部　憲方
郵便番号　737－0915
電　話　33－5571
発行人（編集代表）　渡部　憲
印　刷　松広印刷㈱



海の玄関「呉　港」

断酒

副会長　西村好登

私が酒を覚えたのが、昼は働き夜は定時制高校二年生の頃、職場の先輩に連れて行って貰ったスタンドバーでジンフィズ飲んで、あの酔い心地一発ではまり、何時の間にか周りの人に迷惑をかける酒になりました。

母親が恐れたのは飲酒運転で、十六才で車の免許を取って、これもバイクに一発にはまり、改造マフラーで夜の街を走り、当時ジープのパトカーには、よくお世話になりました。

酒を覚えてからは、どうも歯車のかみ合わない人生を送ってきて自分がやって来た事は棚にあげて女房、子供には厳しく注意して、我ながら**勝手な人生を歩んで**来ました。女房には理想の女性を求め、こんな自分の心が**暴言、暴力**の源になっていたと思う。酒を口にすると理性が無くなり、〝ガマン〟という事が出来なくなり、酒さえ飲めればいいという人生を送って来て、そんな人生が続くわけ無く、人生のやり変えで、呉みどりヶ丘病院に入院となり、五回の入退院でやっと断酒会に入会、頑固なアルコール依存症（**悪性のアル中**）が酒の無い生活を始めました。

酒を止めるのが精一杯で、家族には申し訳ないけど、仕事も出来ないくらい苦しい酒の無い日々、**〝飲酒欲求〟が激しく**『断酒一年』を迎えるまで、**抗酒剤**（シャーナマイド）を一本ラッパ飲みしたりで、抗酒剤にはお世話になりました。

酒の無い生活は**ストレス**が溜まりやすく、どうしようもない自分を**例会出席**がストレスをやわらげ、夫婦喧嘩にも歯止めがきくし、例会出席こそが自分の心に〝平常心〟がもてる事を、色々な体験からわかるようになりました。

『良薬は口に苦し』を忘れないように〝例会出席〟〝一日断酒〟を続けます。

呉みどり断酒会創立42周年記念

体験発表

大下 美恵
（アメシスト）

私は**父子2世代、呉みどりヶ丘病院でお世話になり**、呉みどり断酒会に、父、母、私とお世話になっております。

父は、酒が好きで他に趣味も無く、飲んでご機嫌でいる時は好きでしたが、だんだんと思春期に成るにつれ、飲んで朝帰りしたり、酔っ払った姿が嫌に成ってきました。母は、父の酒で何時もにが虫をつぶした様な顔をしており、その頃から非行に走り始め、父の一升瓶を自分の部屋に持って上がり、ラッパ飲みしたのですが、初めて飲んだ酒はまずくて、目はグルグル回るし、気分は悪くなって吐いてしまうし、（父はなんでこんなまずい物飲むんかなあ？）と思いました。

そのうち私は家に寄りつかなくなり、**シンナー、家出、暴走族**と遊びほうけていました。

父の酒がひどくなったのは、その頃だったと思います。

父に「出てけー！」と、コップ酒を投げられたり、出て行こうとしたら、父に馬乗りにされて叩かれたり、家の中は滅茶苦茶でした。『こんな親父なんか要らん！あんたらが一番気にしとる世間体とやらを、ぶち壊しちゃる』と、私はそのまま**家を飛び出しました**。

私は荒れに荒れまくって、時々家に帰っては両親とケンカ、そんな日々が続いていました。そして退学になりかけていた高校も、一人の先生のおかげで無事卒業する事が出来ました。

卒業後、**バスガイド**という職についた時には、父は大変喜んでくれました。

そのバスガイドの職も一年足らずで止めてしまい、借金も有り、てっとり早く返済する為という、ほんの軽い気持ちで、**水商売の道**に入りました。

自分が酒に強いと感じたのは、その頃でした。しっかりとしているんですが、二日酔い、ブラックアウトは、その頃から経験。酒飲んでそうなるのは当たり前だと気にも止めてませんでした。

父が断酒3年目を過ぎた頃、私はある男性の事で勘当、家出となり、何とかして両親に認めて貰おうと、こんな私でも一生懸命に昼も夜も働いていました。しかし、同棲していた彼は、仕事が嫌いでギャンブルばかりして、私がいくら働いても一向に生活は楽になりませんでした。そのうちに、私は朝酒を覚え、何日も帰らない彼を待つ身にもなれず、四六時中酒が入ってないと自分の心を押さえる事が出来なくなってました。

借金をしては酒を買い、その頃では、焼酎をストレートで飲んでました。一升瓶の空が何十本も転がって、片付ける事も出来ず、顔はパンパンに腫れ上がり、皮がむけ、**おばけのような顔**、それでもタオルで顔を隠して酒を買いに行ってました。その頃、夢か幻覚か？何度も枕元に**〝死に神〟**が立ってました。

そして、初めての内科入院。**〝肝硬変〟**と病名を告げられた時は、ただ愕然としました。

見舞金も、その彼は遊びに使い、入院費も両親に払って貰いました。帰ってからも、自分の居場所をどこに置いてよいか解らず又、酒に溺れ始めました。

父と目を合わす事も無く、会話する事も無くなっていました。〝こんなんじゃいけん！〟と思い、職につくんですが、酒を止める事が出来ずにいました。そのうちに又、身体がだんだん悪くなっていっているのは自分でも感じてました。

「死にたくない」と、**「このままでは死ぬんじゃないか？」**と思いながらも、家庭医学書を片手に死への恐怖をごまかしながら、酒を飲んでました。

母が心配して見に来てくれても、「何しに来るんね、見に来るな！」と酒飲むのを邪魔されている気がして、飲める場所に行きま

石橋　剛

呉みどり断酒会創立42周年、おめでとうございます。

今日の良き日に私の拙い体験発表の機会を与えて頂き、有り難うございます。

私は昭和25年生まれで今年で59才になります。現在、断酒して6年余りになります。

最近になり、やっとお酒を止めて良かったと思える事が時々あります。この様な思いになれたのも今日迄、御指導して下さった院長先生を始め職員の皆様、亦、断酒会の諸先輩並びに朋友の皆様のお陰と深く感謝しております。有り難うございました。

私の酒歴を話しますと、小さな事業を営み、仕事人間でお酒は全く飲めない、厳格な父親に育てられた私は大学に入る迄、お酒とは無縁でした。

私が最初にお酒を口にしたのは19才の時で、所属クラブの卒業生追い出しコンパの席でした。

した。そのうちに又、家に帰らなくなり、酒浸りの日々が続きました。

しかし、その頃では周りの人達も私に酒を飲ますまいと一生懸命で、私は隠れて酒を買い求め、**海で**飲んだり、**公園のベンチ**で飲んだり、**トイレの中**で酒を飲んで寝てしまい、何時間も出てこなかったり、一緒に居た人が「こんなもんがあるけーいけんのじゃ」と、泣きながら酒を捨てている姿を見ても、「もったいない事するな！」ってイライラして、人間性を失っていた自分自身がいました。

酒を止める気は全然無かったです。

バブルがはじけて不景気のまっただ中、**親しかった知人の自殺**があり、悲しくて酒飲んでは寝る、起きては又、酒でした。

ある日、どんなに私を起こそうとしても起きる事が出来ず、父とその方に連れられ、**呉みどりヶ丘病院に入院**。「なんでこんな所に私がおらんにゃいけんのん」とデタラメな入院生活、〃2度と帰れないのか？〃と両親を恨んでました。4年経った頃、生死をさ迷っていた時、〃このままで私の人生終わりにしたくない、**もう一度人間らしく生きてみたい**〃と思い、一年後退院しました。

退院してすぐに、両親がお世話になっている呉みどり断酒会に入会、レールは敷かれていました。

ただあたり前の様に入会、自分の意志というよりレールの上を走っている気がして嫌でした。男性会員がほとんどの例会では、発言内容にも気を使う事も多く、ある日、私の何気ない発言が男性の方には少々刺激が強かったのか、後で先輩から厳しく注意された事がありました。私は悔しかった。〃断酒会って何なんじゃろうか！こんな会なんか無くても酒ぐらい一人で止めたるわい〃と父に反発、しかし、父は「酒害は他にも沢山あるじゃろう。**目線を変えてみーや**」と言われ、少しずつ気持ちが落ち着いていきました。

あっという間に一年断酒。うれしかった、本当にうれしかった。それから後、病棟で仲の良かった人が飲酒。「なんで？2人で2度と酒だけには手を出すまあね」と約束したのにって…。悔しくてはがゆくて、やり切れませんでした。その日はブロック例会の日でした。足は重く、例会場に着いた時、涙が出てきました。

その時、大先輩が……「アルコール依存症はね、**飲むのが当たり前**なんよ！だけど**止めるのも当たり前**なんよ。」

その一言に込められた意味がぼんやりだけど解かった気がしました。

入会して3年が過ぎ、父や母に反発しながら、なかなかわがままも直りません。だけど、幼ない時パパ、ママと呼んでいた**両親が今とても大好きです**。

気が付けば父も母も歳を取ってました。親不孝ばかりしてきた私が唯一出来る事は、二度とあの悪夢の様な数十年の思いを両親にさせない事です。その為にも例会出席を続け、断酒会の輪の中で将来に向けて皆様の後について頑張っていきたいと思います。

この命を大切に生きていきます。

大好きなパパと

お酒の怖さを全く知らない私は、先輩達に勧められるままに飲み、前後不覚に陥ってしまった苦い思い出しかありません。

その頃の飲酒は、仲間達との交流の機会がある度にしていましたが、最初に苦い思いをした私は、その場を和ませ、盛り上げる潤滑油として嗜む程度でした。

卒業後、地元の**建設会社**に就職。家庭の事情で転職を余儀なくされる迄の6年余りの間で、建築の仕事とお酒の嗜み方のイロハを叩き込まれました。

建築現場での**施工管理**というお酒とは縁の深い特殊な環境の中で、いつしか私はお酒に関して以非通ぶってました。

その頃から夜のネオン街を知り、月に2～3度同僚達と繰り出してました。

その頃は「**酒は飲んでも呑まれるな**」と常に自重したお酒でした。

私が何時頃から異常飲酒になったのだろうかと振り返ってみると、家庭の事情から勤めてた会社を一年間休職した頃からだったと思います。

その頃は建築の仕事も面白くなり始めた頃で、自分の意志に関係なく辞めざるを得ない不満と新しい職場への不安が異常飲酒の遠因になってたと今だから解ります。

再就職先の土木建設会社では、37才の秋に交通事故を起こして退職する迄は**水力発電所の土木施設**の設計と施工管理をし、退職後は水力発電所の仕事で行ってた奈良県の中継地としてた京都の建設会社に再就職。そこでは、建築工事の積算並びに購買部門の仕事をしてました。

私の仕事は一つでも多くの工事を経験し積み重ねて実績を造る事が次の新しい仕事に繋がります。ですから、私が異常飲酒になり始めた34才以前は仕事を覚える事で精一杯でした。

しかし、34才を境に職責を持つ様になってからは昼間は仕事関係の人達との応待で時間は潰れ、私本来の仕事は誰も居なくなった午後5時からで、深夜、または早朝に及ぶ事は日常茶飯事でした。

それでも、充実した仕事をして居ると苦にはなりませんでした。

そんな時間に追われ乱れた生活をしていくうちに深夜勤務の私の机の上には酒の器が置かれる様になってました。

酒量は酩酊する程飲むと仕事に差し支えるので少ないのですが、いつしかアルコールが切れる事のない身体になってました。

その頃はアル中と云う言葉は知って居ても症状は知らず「**沈黙のアル中街道**」の真っ只中に居るとは夢にも思いませんでした。

しかし、乱れた生活を8年近く続けた42才の時、体調を崩して帰郷。その時は、二十年近くの職歴が在れば仕事は何とかなると自負心だけは持って居ました。

帰郷してからは、お酒を断った生活を始めたのですが**禁断症状**を発症して、平成4年4月に当院に初めて入院。入院生活で受けた衝撃は大変なものでした。しかし退院後の社会生活の中で受けた衝撃は入院してた時とは比べようもなく大きくて私の前に立ち塞がり私の自負心は足元から木端微塵に打ち砕かれました。それからが自分との葛藤の始まりで随分と長い間無駄な抵抗をして入退院を重ねました。

その頃の私の精神状態は**迷己遂物の一言**で依存症を認め、自分の置かれてる立場を理解し、これからどうするかを考える余裕もなくて依存症を否定する事ばかり考えていました。

そんな私も入退院を重ねるうちに依存症を否定する事から「断酒が出来てる人が居るのに何故私には出来ないのか」と、断酒の必要性を意識する様になって居ました。

その間、父親が他界し渋々家業を営む中で父親が残したノートの一冊に私の将来を心配した記述を見付け、父親の本心を知り、自責の念に駆られると同時に深く反省し、**断酒しなければ私の将来はない**と断酒を決意しました。これが私が何時も例会で話している8年目の出来事の真相です。

良き先輩、良き友人に恵まれて

しかし、断酒を決意しても仕事に行き詰まるとお酒に逃げてしまい、これではいけないと7年前に最後の入院をし、退院後はみどり会に再入会して今日迄断酒が出来て居ます。

そして、私も今では依存症は**自業自得の病気**であり理由は何であれ自らが仕向けてなったのだから、自身が治すしかないと思ってます。亦、例会出席を重ねていくうちに私が迷惑を掛けた人達がどれほど居ただろうか。その人達が失ったものは計り知れないものだった筈と思うと何とか償いをしたいと考え始めました。

そして、どんな迷惑を掛けたのかと記憶を辿るのですが断片的にしか覚えておらず前後の辻褄が合わない代物でした。そんな訳で残された方法は、例会に出席し家族の方達の発言から想像するしかありませんでした。そうすると次は償い方や断酒方法を知るには**数多くの体験談を聞く**しかないと思う様になり、断酒会の行事に出来得る限り参加して来ました。

参加を重ねる度に親交を深めて下さる方達も増え、その方達との会話の中から多くのヒントを得る事が出来ました。

亦、今回断酒を継続して行くうえで掛け替えのない相談相手（**パートナー**）**との出会い**を得た事も忘れられません。

その方からは「人は変えられない。変えられるのは自分で、他人に理解して貰うには自分を変えて行く事が大切。そして、自分が納得出来る迄諦めずに実践を続ける事」と助言を頂き、断酒を決意した私を理解して貰う為、言動から変えようと努めました。

その頃から、**良き友人良き先輩**を得る事が出来ました。

今でも、この相談相手の方とは親交があり、言葉に出来ない程、感謝して居ます。

そして、僅かな期間ですが、今日迄断酒をし、学んだ事は、一朝一夕の短絡的行為で信用の回復は在り得ない事。

一日一日の地道な実践の積み重ねを大切に、決して諦めずに続ける事。

戻れない過去を嘆き取り繕うより、これからの自分をどの様に変えて生活して行くかを追求して行く事でした。

終わりに、断酒会ではよく「**一人では断酒は出来ない**」と云われてます。

私も最初は言葉の真意が解らず、疑心暗鬼の入会でした。

しかし、断酒会に入会し、断酒と云う同じ目的を持った方達との交流の中で真意も解り、私が忘れてきた**人と人との和の大切さ**を思い出させて頂きました。

同じ目的を持った方達との〝和〟の中で親交を深めて行く事は、実体が見えず、掴み難くて多くの労力が必要です。

そして、一見、廻り道をしてると錯覚しがちです。

しかし、この前向きな行動が結局は断酒実践の近道に繋がって居る事も学びました。

これからも断酒会の中で今迄学んで来た事を忘れずに**実践**を続けて行き、人との和を大切にしながら生きたいと思っています。

今後も例会出席をしながら、皆様の後について参りますので、御指導の程、宜しくお願い致します。

これで、私の体験発表を終ります。

曽根 真由美
（家 族）

五年前のお正月休み明けに、主人は呉みどりヶ丘病院に入院し、断酒会に繋がりました。

お正月前から飲み続けたお酒は、連休が終わっても会社に行けそうにありませんでした。

夏頃から以前のような二、三ヶ月間隔が空く山型飲酒は、一ヶ月も間隔が空かなくなっていました。

そして「もうお酒はやめるから」という取繕いの言葉も無くなり、お酒を止める言葉を私が言うと、「酒を飲んで何が悪い」と怒鳴ったり、物を投げたりして、威嚇しました。

それでも長く会社を休むことになるので、なんとかしようと思ったのでしょう、私が長い間恐れていた二度目の**幻覚、幻聴**がとうとう出てしまいました。

家から見えるバス停に誰かいるように見えるらしく、「あなたは誰ですか、私を呼んでいますか。ちょっと待って下さい。すぐ行き

ますから。」と、いつも私を怒鳴る言葉との違いが、いっそう不気味でした。

主人は家を飛び出し、声の聞こえる方に向かって走って行きました。私には見えない人を一生懸命探していました。近くに住む姉や甥に主人を連れて帰ってもらい、みんなが見えていない事で幻覚だと一応納得しました。

その夜は、「家の外に誰かが来ている、本当にいないのか、叫んでいるじゃないか。」と怯えていました。私は幻覚が出ている主人が怖かったのですが、今回は一度目と違い、病身ではありましたが頼りになる父や母、姉達がそばにいてくれました。

わたしを七年間怯えさせた一度目の幻覚、幻聴は今からちょうど十二年前に出ました。

私達夫婦は、主人の**仕事の関係でタイのバンコクで暮らし**ていました。毎日大量飲酒をし、お酒で困ることは、たびたびでしたが、不安な心を、日本に帰ればまた変わるとごまかしながら、主人が無事役目を果たし日本に帰る日まで頑張るつもりでいました。

赴任して一年が経った時のことです。主人は、私には聞こえない声の主を捜し求め、隣の家の扉を叩いたり、見えない姿を追いかけてマンションの周辺を駈けずり回ったり、マンションの警備員や管理人までを無理矢理連れ出し、いっしょに捜させたりしました。私が見えないのが信じられない様子でした。

少し前から様子がおかしかったので、**家庭医学の本**を開くようになっていた私は、付箋のついているページを開きました。何が起こっているのか分かったような気がしました。不安だった事が、とうとう現実になったのだと、目の前が真っ暗になりました。

今思うとこれまでの人生が壊れていくような絶望的な気持ちの中で、妙に冷静だったなと思います。朝まで待って、少し落ち着いた主人をタクシーで病院に連れて行きました。

私は薄暗い風景をこれからどうなるのだろうと思いながら、ぼんやり眺めていました。

入院した日の夜、幻覚、幻聴のピークが来ました。病院でも、いないはずの人の姿を追いかけて、8階の病室の窓から出ようとして、大騒ぎになりました。警備員にまるで犯人のように取り押さえられ、最後は注射で眠らされました。

二人で出続けます

この時の主人の様子は、「幻覚、幻聴が出たら、主人は何をするかわからない。自分が傷つく事もあるだろうし、人を傷つけることもあるかもしれない。人に見えない物が見え、聞こえない声が聞こえるのでは、社会生活は出来ない。」私にそう思わせました。

タイの主治医にお酒を止めないとまたこのような事は起こると言われ、その時から私は、**「一滴のお酒も次の幻覚、幻聴に繋がる、飲ませてはいけない」**と思うようになりました。

見張ったり、うるさく言ったり、お酒を止めさすには、マイナスになるような事もしましたが、自分には頑張ったと思える七年でした。

「いつかやめてくれる」と僅かながらでも期待していた私の気持ちも、**「この人はお酒をやめることはない」**と変わって行きました。

やめさせようともがいていた頃読んだ本に「あなたは、自分は何も悪くないのに、どうしてこんなめにあうのだろうと思っていませんか、本当にそうでしょうか、あなたは、**飲みやすい環境を作っていませんか?**」という言葉が私の頭のどこかにいつもありました。

この頃になって『お酒を飲むのは主人、お酒で迷惑を掛けるのも主人。私は少しでも会社や家族、近所に体裁がたもてるよう主人をフォローした。主人が物を投げ、ぐちゃぐちゃにした家を片付けるのも私。庭や空き地に投げ捨てたお酒の空瓶を、隣に住んでいる父や母に見つからないように情けない思いで片付けるのも私だ。主人は何事も無かったように、しばらくしたら、また連続飲酒で会社を休んでいる。』この現実が見えてきました。

人に迷惑をかける心の痛みも、いつ幻覚、幻聴が出るかわからない恐怖も、私がほとんど受け持っているような気がしました。私の頑張った事は、確かにやめないでもなんとかなっている環境を作っていました。

そして主人のお酒に心を縛られている間に、父の病状は良くなることはなく、それでも自分のことより、お酒に振り回されている私を心配する姿がそこにありました。父は私にどうしろとは言いませんでしたが、「これから、どう生きて行きたいか、私の望むことを協力してやる。」と言いました。

私はもう一度動きました。本を読んだり、専門医に相談したり、主人に専門病院に行くことや断酒会に入ることを勧めましたが主人は何も返事はせず、ただお酒を飲むばかりでした。

「もういい。あの時から私は七年間お酒をやめさせようと頑張った今なら、お酒との戦いに諦めて、主人を置いてお酒の呪縛から一人逃れる自分を許せる。」と思いました。

私の心の動きがますます酒量を増やしたのだと思います。そのような状況の中、二度目の幻覚、幻聴が出てしまいました。

主人はこちらの病院にお世話になり、断酒会に入るのを条件に退院し、やっと断酒会に繋がり、今があります。

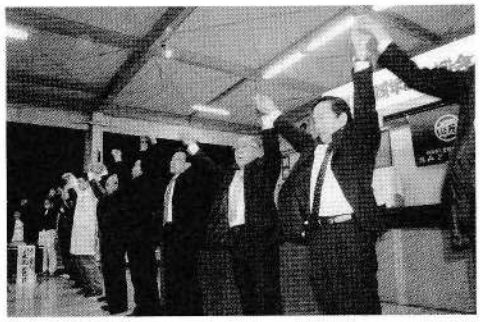
以前、私は「**人として、責任を持って仕事をして欲しい。**そしてそれを支えてくれる断酒会を大切にして欲しい。その中で楽しいと思える事がいっぱいあったらいいと願っている」と体験発表の中で申しましたが、主人に願いは届いていると感じ、そう思わせてくれることに感謝しています。

あれから二年が経ち、断酒会に出続けることの、大変さを学んだ今、「何があっても、**断酒会を離れないで、出続けて欲しい**」という具体的な願いになって来ました。そうすれば社会人としての責任も、楽しいことも付いて来るような気がします。

この場所があって本当に良かった。院長先生にはお身体に気をつけて頂いて、ずっと見守って頂きたいと願っています。

私も例会に出続け、主人が飲んでいた時、知ろうとしなかった「なぜ人生を壊してまで飲まないでいられなかったのか」の言葉に耳を傾け、そして、ただ言い続けた「お酒をやめて」の言葉の奥にあった「なぜやめてほしかったのか」飲んでいた時に届かなかった気持ちを、伝えたいと思います。

主人の断酒誕生日の二週間後が父の命日です。お陰様で今年も五回目の断酒報告ができます。これからもよろしくお願い致します。



創立42周年記念例会　連鎖握手

創立42周年記念 断酒表彰者

★一年断酒　新谷 美恵
〃　澤田 英樹
〃　村本 隆
〃　髙井 行雄
〃　春日井津子
〃　島田 崇師

★三年断酒　渡辺 圭次
〃　大下 美恵
〃　松原 宏治
〃　佐伯 忠
〃　藤田 数夫

★五年断酒　中司 仁博
〃　曽根 敏浩

★七年断酒　藤川 芳文
〃　植田 和雄
〃　遠藤 勇人

★十年断酒　小田多美子
〃　飯畑 一徳

★二十五年断酒　宮野 積
〃　渡部 憲

★三十五年断酒　髙路 忠文

寄付者御芳名

（十一月度）

呉　渡部　憲様　二〇、〇〇〇円
感謝箱（十一月分）　二、一四六円

（十二月度）

呉みどりヶ丘病院院長
長尾澄雄様　六〇、〇〇〇円
呉　室　義信様　一〇、〇〇〇円
〃　藤川芳文様　五、〇〇〇円
呉市　匿名　様　八、五四四円
感謝箱（十二月分）　二、〇六八円

（一月度）

呉　山本一義様　一〇、〇〇〇円
感謝箱（一月分）　七、〇八八円

（二月度）

感謝箱（二月分）　二、〇五四円

創立42周年記念御祝・御芳名

呉みどりヶ丘病院
院長　長尾澄雄様　一〇、〇〇〇円
長尾正久様　五、〇〇〇円
矢村真人様　五、〇〇〇円
田代時弘様　五、〇〇〇円
山根文子様　五、〇〇〇円
佐藤正明様　三、〇〇〇円
住吉秀則様　三、〇〇〇円
河崎千鶴様　三、〇〇〇円
面田正枝様　三、〇〇〇円
石川尚子様　三、〇〇〇円
広島国際大学
岡田ゆみ様　三、〇〇〇円
芸南断酒会　様　五、〇〇〇円
鯉城　浅田　勝様　五、〇〇〇円
呉　高路忠文様　三五、〇〇〇円
〃　宮野　積様　二〇、〇〇〇円
〃　渡部　憲様　二〇、〇〇〇円

断酒継続おめでとう

☆一年　高井　行雄　11月14日
〃　島田　崇師　12月9日
〃　春日世津子　1月12日
☆四年　石田　卓二　1月15日
〃　阪本　映一　2月23日

行事予定

○4月5日　第44回中国断酒ブロック（広島）大会（広島国際会議場・フェニックスホール）

○5月9～11日　第65回松村断酒学校（本山町プラチナセンター）

○5月23～24日　第15回山口断酒セミナー（山口県セミナーパーク）

○6月7日　第39回広島県断酒（沼隈）大会（沼隈町サンパルホール）

○6月21日　第39回全断連総会

○6月28日　津山断酒新生会創立35周年記念大会（津山文化センター）

○7月11～12日　第9回鳥取県断酒会一泊研修会（ホテル大山）

○8月2日　第44回四国断酒ブロック（愛媛・松山）大会（道後町・愛媛県民文化会館）

○8月21～23日　第39回山陰断酒学校（松江市玉湯町公民館）

11,12月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他会会員	院内会員	ケアーセンター	合計
土曜例会	9	303	93	54	432	628	80	1,590
水曜例会	7	223	76		8			307
ブロック例会	2	36	13					49
新会員を囲んで	2	18	4					22
家族の集い	2		9					9
懇談会	2	3						3
特別院内例会	2	41	10					51
高知県断酒新生会50周年	1	5	3					8
第13回ふくやま一泊研修会	1	5	2					7
酒なし忘年感謝会	1	30	13					43
県連理事会	1	2						2
役員会	2	11						11
合計	32	677	223	54	440	628	80	2,102

1,2月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他会会員	院内会員	ケアーセンター	合計
土曜例会	7	243	68	53	349	463	89	1,265
水曜例会	8	248	83		6			337
ブロック例会	1	18	5					23
新会員を囲んで	2	22	4					26
家族の集い	2		9					9
懇談会	2	4						4
特別院内例会	2	40	12					52
新年合同初例会	1	33	10	6	59	68	10	186
第32回愛媛県ワンナイトセミナー	1	4	2					6
呉みどり断酒会創立42周年	1	37	11	10	55	61	10	184
県連理事会	2	10						10
役員会	2	11						11
合計	31	670	204	69	469	592	109	2,113

【平成二十一年度　役員】

常任相談役　田中　正直
相談役　宗政　貢
相談役（監事）　宮野　積
相談役　大下　忠志
会長　渡部　憲
副会長兼事務局長　西村　好登
理事（進行）　石橋　剛
理事（編集）　曽根　敏浩
理事（会計）　笹尾　靖子
理事（行事）　佐伯　忠